

11月に入って世界の衛星通信業界に4件の新しい話題が浮上している。

1件は、Logos Space社（本社：米カリフォルニア州）が3,960機のLEO衛星コンステレーションシステムの申請をFCC（米連邦通信委員会）に提出した。すでに稼働している「Starlink」と「OneWeb」コンステレーションの中間の低周回軌道を駆使し、Ka、Q、V、Eバンドを使用するのが特色である。Logos Space社を創設したのは、元グーグル幹部のMilo Medinと元SpaceX社のRama Akellaの両氏ということもあり業界の異常な注目を浴びている。

2件目は、European Union（欧州連合）がSpaceRISEと呼ぶコンソーシアムにIRIS2（Infrastructure for Resilience, Interconnectivity and Security by Satellite）の開発、打ち上げ、運用をコミットした。コンソーシアムのリーダーは、ルクセンブルグのSES、フランスのEutelsat、スペインのHispasatで、衛星メーカーのThales Alenia SpaceとAirbus Defense & Space、大手通信事業者のドイツテレコムやオレンジなどが含まれている。IRIS2構想の屋台骨は、マルチオービットに投入される290機の衛星で構成され、2030年に完成する予定である。3件目は、アップルがグローバルスター社に15億ドルの出資を決めた。すでにアップルは、グローバルスターの24機の低軌道周回衛星を使用して、2022年からiPhone 14による衛星経由の直接通信を実現しており、この追加出資は次世代の「Satellite-to-Cell」衛星コンステレーションの構築に使用されると思われる。

もう一件は、米国のViaSat社がカナダのTelesat社が推進中のLEO（低軌道周回）衛星プロジェクト「Lightspeed」に乗るのではないかと情報だ。もし実現すれば、LEOをめぐる4大システム、

SpaceX社の「Starlink」、ユーテルサットグループの「OneWeb」、アマゾンドットコム「Project Kuiper」、Telesat/ViaSatの「Lightspeed」による興味深い勢力争いが展開する事態となる。

衛星の打ち上げに関しては、11月11日に韓国の「Koreasat-6A」衛星がファルコン9ロケットで成功裏に投入された。フランスのタレス アレニア スペース社製の衛星で衛星放送用の中継器を6台、衛星通信用の中継器を20台搭載している。本機は、現在東経116度で運用中の「Koreasat-6」衛星の後継機という位置づけである。Koreasat社は、「[Koreasat-6]」「Koreasat-6A」の他に「Koreasat-5」「Koreasat-5A」「Koreasat-7」を運用している。いずれもタレス アレニア スペース社製である。

次いで11月19日には、SpaceX社の大型ロケット「Starship」の打ち上げが成功した。まだ6回目の試験飛行という位置付けだが、トランプ次期米大統領が立ち会ったことで記念すべき打ち上げイベントとなった。まだ先の話だが、日本のスカパーJSAT社が、現在エアバス デフェンス&スペース社で製作中の「Superbird-9」衛星の打ち上げを「Starship」ロケットで行う契約を取り交わしている。打ち上げは2027年に実現する予定である。

さらに、11月20日にルワンダのE-Space社が、同社の実証試験衛星「Protosat-1」を「エレクトロン」ロケットで打ち上げたとの発表を行った。同社は、衛星通信業界のカリスマと呼ばれるGreg Wyler氏が2022年に設立した会社で、116,540機のCバンドLEOコンステレーションの構築を目指している。

一方、衛星打ち上げ業界では、12月に予定されていたアリアンスペース社の「アリアン6」ロケットの打ち上げが来年にす

れ込むと情報が流れている。この遅れが事実とすれば、同社が2025年に予定していた6回の打上の実現が危ぶまれる。

「APSCC2024」が開催

Asia Pacific Satellite Communications Councilが主催する第25回「APSCC 2024」国際会議が、11月5日から7日までタイのバンコクで開催された。今回のテーマは、「Navigating an Uncharted Future: Facing Disruptions and Opportunities in the Space Industry」で、日本からスカパーJSAT、Orbital Lasersなどが参加した。

スカパーJSATは、「Satellite for Connectivity in Asia」と題する開幕目玉セッションに、マレーシアのMeasat、韓国のKT Sat、香港のAPT Satelliteの代表と共に参加した。同社を代表して出席したのは、下妻健市シンガポール事務所長兼アジア地域統括ディレクターで、単なる衛星通信・衛星放送事業者から「宇宙実業社」に躍進する同社の多角的な戦略を披露して注目を浴びた。

Orbital Lasers社からは、Aditya Baraskar グローバルビジネスリーダーが「Benefitting from Sustainable Approach to Space Operation」と題するセッションに登壇した。同リーダーは、Orbital Lasers社が開発中の先進的な小型高出力レーザー技術が持続可能な宇宙環境の維持にいかに関与できるかを語り関心を呼んだ。具体的には、本技術を活用することでスペースデブリの回転運動を非接触で効率的に静止化かできる点を強調した。

さらにもう一人、台湾人で英国在住というJenna Rhodes 女史が、日本で月探査プロジェクトをけん引しているiSpace社のSenior Business Development & Strategy Advisor という立場で参加して



写真1 Logos Space社が、3,960機のLEO衛星コンステレーションシステムの申請をFCC（米連邦通信委員会）に提出した。（出典：logosspace.com）



写真2 韓国の「Koreasat-6A」衛星は、11月11日にファルコン9ロケットで成功裏に打ち上げられた。（出典：thalesalieniaspace.com）

注目を浴びた。iSpace社は、独自の月着陸船と月面探査車を開発して、2025年1月に2回目となる「ミッション2」の打ち上げを予定している。

一方、展示会場には、地元タイのタイコム、日本のアストロスケール、スペインのGMVなどが出展した、

スカパーJSATホールディングス社が決算発表

スカパーJSATホールディングス社が11月7日に第2四半期時点での決算を発表した。営業収益は、2024年度第1四半期、第2四半期の累計で610億円となり、前年同期比5億円の増収となっている。営業利益も139億円で、5億円の増益を計上した。驚くことに、純利益は12億円増の97億円である。増収、増益の背景としては、宇宙事業部門におけるスペースインテリジェンスビジネスとグローバルモバイル事業の貢献が挙げられている。一方のメディア事業は、3月31日に4Kチャンネルの放送を終了したにもかかわらず、オペレーションの効率化により堅調に推移しているとの発表であった。

2024年度の投資計画については、「JSAT-31」衛星、「Superbird-9」衛星、Space Compass社、Orbital lasers社などを対象に280億円、コネクテッドTVと東京メディアセンターの放送設備の基盤強化に50億円を計上している。

「人と人、企業、社会をつなぐプラットフォームとして、多様で創造性豊かな社会

の実現に貢献する」を謳ったメディア事業ビジョンの発表も興味深かった。具体的には、ドングルを活用するコネクテッドTV、光アライアンス（光再送信、CATVパススルー）、統合マスター、メディアHUBクラウド、コンテンツデータベース、リアル・バーチャル体験など、多種多様なビジョンを取り挙げている。

「InterBEE 2024」

11月13日から15日まで3日間にわたり「InterBEE2024」が幕張メッセで開催された。第60回という節目を迎えた今回の会場には、日本の衛星通信業界を代表してエーティコミュニケーションズとマウビックの両社が出展した。

エーティコミュニケーションズ社は、同社の目玉製品の「Satcube」可搬型平面アンテナに加えて、現在Satcube社が開発中の「Satcube Motion」と名付けた車載型平面アンテナを先行出展して注目を集めた。完成品のリリースは、2025年になるという。同社は、この他インマルサット衛星対応の「Global Express ライト」と呼ぶ平面アンテナを紹介して来場者の関心を呼んだ。

マウビック社（本社：静岡県浜松市）は、中国のSTARWIN社のPhased Array平面アンテナ（長さ1.2m、横60cm）を出展して来場者の意表を突いた。マルチオービット（GEO、MEO、LEO）を周回するKuバンド衛星対応の車載型で、言うまでもなく映像伝送を実現する。同社によれば、7月にSTARWIN社の販売代理店になり売り込みを始めているという。

マウビック社は、この他お馴染みのVISLINK、MediaKind、ST Engineering iDirectなどの放送システムや機器を紹介した。VISLINKの「vPilot」は、AIを駆使するマルチカメラスタジオシステムで、ブースでは3台のカメラによるデモが行われた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
日本衛星ビジネス協会 理事

ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣



<SATCUBEアンテナの特長>

- 47cm x 30cm x 5.5cmビジネスバッグに入ります！
- SCPCモデル・Sat-Qモデル・各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか1分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星捕捉は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機対応可能/バッテリーで運用可（約3時間運用可能）
- 運用中のバッテリー交換可（ホットスワップ対応）
- モバイル中継装置（TVU・Live U・スマテレ等）と連携可

SATCUBE

「驚愕の超小型平面アンテナ！」

スタンダードなSCPCでのSNGモデルに加え2020年7月に新しくスタートしたスカパーJSAT社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などのHD映像伝送・災害通信・海外通信・企業のBCP向けなど幅広く利用可能です。

Communications k.k. エーティコミュニケーションズ株式会社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
TEL: 03-5772-9125 <http://www.bizsat.jp>